



J. FRONT RETAILING

2023年4月14日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問い合わせ先 コーポレートコミュニケーション室
 TEL 03-6865-7621

2023年3月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告（IFRS）

1. セグメント別売上収益（売上高）（対前年増減率：％）

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	3月度	累計	3月度	累計
百貨店事業	13.7	-	16.7	-
SC事業	6.2	-	18.0	-
デベロッパー事業	16.6	-	18.8	-
決済・金融事業	9.0	-	9.0	-
その他	10.4	-	10.1	-
連結合計	13.1	-	17.1	-

※注） 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高（総額ベース）に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 3月度の売上高は、前年のまん延防止措置適用による反動増に加え、春の新生活のオケージョン需要などによりジャケット、ブラウスなどが活発に動いたこと、ホワイトデー、お花見需要などにより食料品も好調に推移したこと、ラグジュアリーブランドや美術宝飾品も好調を維持したことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年17.1%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同16.7%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高は、対前年435.6%増(客数同3197.0%増、客単価同▲83.8%減)であった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高（免税売上上の本年・前年実績を除く）は対前年12.2%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の4月度の既存店売上（法人・本社等を除く）は、入店客数の増加に伴い各商品分野とも好調に推移し、特にラグジュアリーブランド、化粧品が大きく売上を伸ばしていることなどから、13日までの累計で対前年23.2%増（対2019年度0.2%増、対2018年度0.6%増）、国内売上高は同16.1%増（対2019年度8.3%増、対2018年度5.3%増）で推移している。また免税売上高は対前年583%増（対2019年度▲50%減、対2018年度▲49%減）で推移している。

2) SC事業

- 3月度のテナント取扱高は、前年のまん延防止措置の反動や全国旅行支援の延長などの影響により人流が回復したこと、各店において、アニメ・キャラクターなどの展覧会の開催店舗数を増やしたこと、消費変化を捉えた春の改装を実施したこと、加えて訪日外国人客の来店が増加したことなどが集客に貢献し、全店舗計（既存店）で対前年23.8%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J.フロント建装が、ホテル内装工事や百貨店改装関連工事の好調により大幅増収となり、全体でも増収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、百貨店売上好調を主因とする加盟店手数料の増加などにより増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、電子デバイス、産業資材の好調などにより増収となり、全体でも増収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
 IR推進担当 TEL 03-6865-7621
 グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2023年3月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	3月度		累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	32.6	51.0	-	-
大丸 梅田店	16.4	29.4	-	-
大丸 東京店	37.5	58.3	-	-
大丸 京都店	17.0	14.6	-	-
大丸 神戸店	12.1	11.3	-	-
大丸 須磨店	0.7	▲1.7	-	-
大丸 芦屋店	1.5	0.5	-	-
大丸 札幌店	24.2	27.8	-	-
大丸 下関店	▲6.7	▲5.9	-	-
松坂屋 名古屋店	11.2	6.6	-	-
松坂屋 上野店	5.2	28.2	-	-
松坂屋 静岡店	7.0	10.8	-	-
松坂屋 高槻店	▲1.0	2.8	-	-
店 計	18.1	25.7	-	-
法人・本社等	▲0.6	-	-	-
大丸松坂屋百貨店合計	17.1	25.7	-	-
うち商品売上高	17.3	-	-	-
うち不動産賃貸収入	12.1	-	-	-
博多大丸	15.0	15.0	-	-
高知大丸	▲1.4	▲0.8	-	-
百貨店事業合計	16.7	24.8	-	-

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	3月度	累計
紳士服・洋品	▲1.4	-
婦人服・洋品	20.3	-
子供服・洋品	12.1	-
その他の衣料品	5.4	-
衣料品計	17.0	-
身 回 品	16.7	-
化粧品	24.6	-
美術・宝飾・貴金属	21.7	-
その他雑貨	36.7	-
雑 貨 計	24.0	-
家具	12.8	-
家電	5.0	-
その他の家庭用品	6.2	-
家庭用品計	7.8	-
生 鮮	1.4	-
菓 子	17.9	-
こと、各店において、アニメ・キ	13.6	-
その他食料品	10.8	-
食料品計	13.4	-
食堂・喫茶	41.2	-
サービス	20.3	-
そ の 他	5.0	-
合 計	17.3	-

- ・ 婦人服・洋品は、春のオケージョン需要によりジャケット、ブラウスなどが活発に動き、ラグジュアリーブランドも好調を持続した。紳士服・洋品は品番改定の影響により、対前年マイナスとなった。身回品では旅行需要、インバウンド需要などによりキャリーケース、スーツケースが大きく売上を伸ばした。雑貨では化粧品がメイクアップアイテムを中心に売上を伸ばし、美術・宝飾品も好調を持続した。食料品ではホワイトデーや行楽需要により、菓子、惣菜が好調に推移した。

2023年3月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	3月度	累計
札幌PARCO	42.8	-
仙台PARCO	19.3	-
新所沢PARCO	▲5.8	-
浦和PARCO	10.6	-
池袋PARCO	31.3	-
PARCO_ya上野	31.3	-
ひばりが丘PARCO	11.2	-
吉祥寺PARCO	29.1	-
渋谷PARCO	50.1	-
錦糸町PARCO	27.6	-
調布PARCO	15.4	-
松本PARCO	▲6.2	-
静岡PARCO	▲1.4	-
名古屋PARCO	18.6	-
心斎橋PARCO	46.0	-
広島PARCO	16.0	-
福岡PARCO	30.0	-
全店計	18.8	-
既存店計	23.8	-

※注) 1. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、津田沼PARCOの前年実績値を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	3月度	累計
衣料品	12.4	-
身回品	17.7	-
雑貨	21.8	-
食品	▲3.2	-
飲食	36.8	-
その他	38.7	-
合計	18.8	-

3. 営業概況

- ・3月度のテナント取扱高は、前年のまん延防止措置の反動や全国旅行支援の延長などの影響により人流が回復したこと、各店において、アニメ・キャラクターなどの展覧会の開催店舗数を増やしたこと、消費変化を捉えた春の改装を実施したこと、加えて訪日外国人客の来店が増加したことなどが集客に貢献し、全店舗計（既存店）で対前年23.8%増となった。
- ・アイテム別取扱高では、新生活に向けた需要により衣料品が対前年12.4%増、身回品が同17.7%増であった。継続して人気のアニメ・ゲーム系コンテンツのショップを中心とした雑貨も同21.8%増であった。